

球磨川河川整備計画、これで本当に大丈夫？

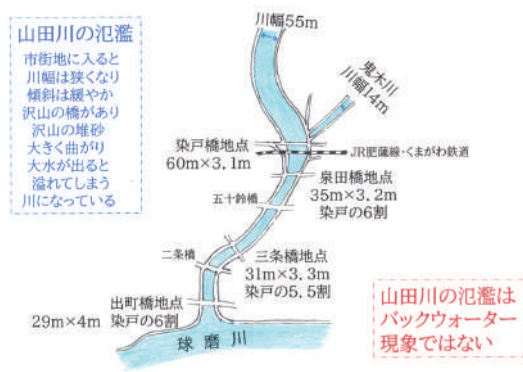
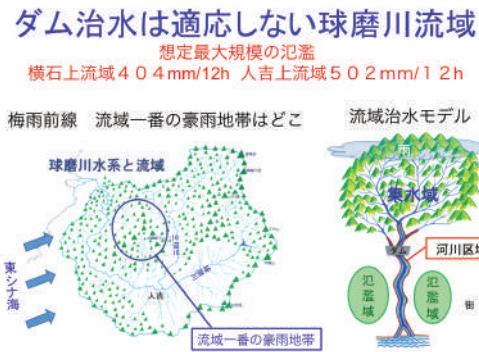
今後30年の球磨川の治水計画を決める計画案が、発表されました。より良い計画にするために、流域住民、県民、国民の全員が、この計画に対して意見を言うことができます！ ぜひあなたも国や県に意見を提出して下さい！

前提が間違っている！

計画案は、川辺川ダム、田んぼダム、遊水地、連続堤防で備えを行うことで、2020年7月豪雨と同じ規模の洪水に対して、人吉市等や中流部の家屋の浸水防止など被害を軽減できる、と言います(計画案p.90)。本当に、川辺川のダムや田んぼダム、遊水地で、2020年7月豪雨の被害が軽減できるのでしょうか？

計画案では、ダムを造る球磨川本流や最大支流川辺川の上流で雨が降ることを大前提にしています。しかし現実には、2020年7月豪雨で最も雨量が多かったのは球磨村・芦北町・八代市が隣接する中流域でした。球磨川上流部や川辺川ではありません。これは例年の降雨の傾向とも共通しています。

つまり計画案は、計画が成り立つ大前提である雨の降るエリアを、見誤っているのです(図の左側が現実の豪雨地帯。計画案では誤った右側の考えが前提)。



計画案は、支流への対応についても、前提が誤っています。というのも、支流からの氾濫は全てバック・ウォーター(=本流に合流できなくて溢れる)、本流だけの対応をすれば問題ない、という姿勢に徹しているのです。

現実には、支流が本流よりも先に溢れ、支流の周辺部に大きな被害を出しています。

たとえば山田川では、川幅の狭さとまちづくりの問題によって、氾濫が発生しています。しかし、計画案ではこうしたメカニズムには一切言及せず、球磨川本流の対応さえすれば支流も問題ない、としています。

流域の実態を踏まえた対策になっていない！

さらに、計画案では流域の山の荒廃の問題や、市房ダムや瀬戸石ダム、油谷ダムなどの既存のダムのリスクには一切触れていません。既存のダムは「有効活用する」、山の対策はほぼ言及なく、かろうじて「関係機関と連携」という言葉があるだけ。どんな関係機関とどんな連携をするのか、何も書かれていません。

衛星写真(Google Earth)を見てもわかる通り、流域の山々は満身創痍、皆伐・乱伐跡地が目立ちます。土砂災害をもたらす山を回復させることこそが必要であることを、計画案は無視しています。

ダム+流域の破壊



国交省の矛盾した説明

命を守るダムを造っても、「命を守るためには避難しなさい！」？

国交省はダム建設のための河川整備計画の作成に取りかかりました。2020年の豪雨災害を振り返ると、ダムを造っても命は守れないことがわかります。

温暖化による猛烈な集中豪雨が降るようになった今

流域の山々は



山から森が消え、山地は荒し放題

球磨川も支流も



川から水が消え、石や砂だらけの川に

2020年7月4日 山河が荒廃した流域に猛烈な集中豪雨が降った



支流の災害は山から始まり 命を脅かす氾濫が発生



本流の災害はダムが川底に貯め込んだ臭いヘドロを持ち込む氾濫が発生

手渡す会は、被災された多くの方の証言と現場検証から、甚大な災害はダムを作っても絶対に防ぐことが出来ないという事実を明らかにしました。

国や県は、この甚大な災害が何故発生したのかに関する調査は一切行わないで、ダム建設を推し進めています。ダムを作っても、逃げ遅れゼロが唯一の防災なのです。「ダムはムダである」ということの一番の証です。

私たちは、流域の歴史の宝である球磨川を100パーセント壊してしまう上、緊急放流で危険を3倍増させてしまう川辺川ダムの持ち込みを許すことはありません。